

令和2年度 第1回八戸市博物館協議会 議事録

日時：令和2年8月6日（木） 13：30～15：00

場所：八戸市博物館2階 体験学習室

出席委員(10名)

議長 新原 秀郎 (会長)
工藤 竹久 (副会長)
加藤 真人
有馬 克美
川口 桂子
滝尻 善英
田端 良子
鈴木 規夫
野田 明広
鈴木 善美

事務局出席者(8名)

小保内 裕之 (博物館館長)
竹洞 一則 (資料館館長)
下村 恒彦 (博物館副館長)
船場 昌子 (博物館主幹)
野沢 江梨華 (博物館主査兼学芸員)
山野 友海 (博物館主事兼学芸員)
中尻 貴之 (資料館主事兼学芸員)

次第

- 1 開会
- 2 博物館館長挨拶
- 3 会長挨拶
- 4 案件
 - (1) 令和元年度事業実施報告について
 - (2) 令和2年度事業計画について
 - (3) その他
- 5 閉会

【 4 案件（１）、（２）、（３）】

（事務局説明後、質疑応答）

議長

ありがとうございます。

それでは、委員の皆様から事前質問をお受けしておりましたので、その御意見をお伺いしたいと思います。滝尻委員からの質問です。

事務局

まず一つは、御質問いただきました博物館の市民講座についてです。3件の市民講座をこのような内容にした理由、これについて御説明いたします。資料のほうは資料2の3ページとなります。本年度から市民講座は1つの分野で構成するという考えで、今回は民俗を取り上げるということにしております。12月19日の「ベンケイの来た道」については南相馬市と八戸市が、共に山と海のある気候風土が似ていることから、その中で南相馬市の郷土料理であるベンケイが、東日本大震災の影響で伝承するのが難しくなっているという、その実例を伺うものとして選んでおります。11月28日の「かち栗と乾燥『どんぐり』」につきましても、内容に八戸に関する話が含まれているということです。1月9日の「文化財レスキューから民俗展示へ」は、文化財全体と民俗分野に関する内容となる予定です。

それから、御意見として承っておりますのが、コロナ禍と来年度事業についてです。来年の事業はコロナの中でも実施できるような予算で組んでおいた方がよいのではないかとということですが、それに対しまして、来年度の事業の予算は、このコロナが収まった場合の通常の実施分の最大限、マックスで要求しまして、コロナの影響が続いた場合はその事業実施分のマックスの分でカバーするという考えでおります。

それからもう一つ御意見として、今年度の秋季特別展についてですけれども、この特別展の後に使われなくなった農具の寄贈の申し出などが生じた場合、対策を考えておいた方がよいのではないかとということでしたが、それに対しましては、まず、通常寄贈につきましても物を見させていただいて、今までに収蔵されていないもので状態がよければ収蔵を検討するというものですが、今回申し出があった農具等が既に博物館に複数収蔵されている場合、あるいは一括で大量の申し出があった場合は丁重にお断りするという考えでおります。

以上です。

議長

今、滝尻先生からの質問の回答を事務局にしてもらいましたが、何かそれについて御質問ございませんか。滝尻委員。

滝尻委員

質問書に書いている中にこういうことも書いていたのですが、タイトルの中に興味が湧くような文言が入っていればいいのかということ、例えば八戸と何か関わりのあるような用語をこの中に入れておくのはどうかということです。例えば「ベンケイの来た道」となったときに、ベンケイを知らない方が多いと思います。ベンケイって一体何だと。すぐに武蔵の弁慶のほうをイメージしてしまえばまた違ってくるので、これは郷土料理のほうのベンケイだと、そこを一般の人たちも分かるようなタイトルの方がよいのではないかと、そうふうに書いていました。

議長

よろしいでしょうか。ベンケイって分かりましたか。郷土料理です。どういう料理だか皆さん分かりますか。滝尻先生分かりますか。

滝尻委員

私はすぐに、囲炉裏のところに魚を刺すベンケイをイメージしてしまったのです。

議長

分かりました。

滝尻委員

こちらの方では、郷土料理のベンケイって一般的ではないですね。

議長

はい、館長。

博物館長

保存食ということでして、今おっしゃった魚だけでなく、大根の漬けた物とかあるようですが、これが実は、きっかけは天明の飢饉だそうで、その当時中村藩というところが、飢饉を乗り越えるために北陸の方から移民をさせ、その移民で来た人たちがもたらした食だそうです。その中でこのタイトル、ベンケイだとやはり分かりづらいので、そこを例えば飢饉を生き抜いたとか、少し工夫すれば伝わるようになるのかと思います。

議長

郷土料理がそういうふうなものである。

博物館長

そうです。

議長

よろしいですか。では、滝尻委員からののはそれでよろしいですか。

滝尻委員

はい。

議長

その他、今日説明の中で御質問があったらお伺いしたいと思います。ございませんでしょうか。鈴木委員。

鈴木(善)委員

今、南郷で刀剣展をやっています。それで、私は結構おもしろいなと思って、是非B e - F Mに取材に来てくださいと、チケットとチラシを持って置いてきています。実は「逆刃刀（さかばとう）」というのが入ってまして、実際はあり得ない刀なのですが、それをわざわざ作ってくれたということで、これを今の若い子たちに言ったら飛びつくのです。緋村剣心（ひむら けんしん）という時代劇、少年ジャンプの漫画だったのですが、佐藤健（さとう たける）君が主役になって映画化が3回ぐらいされている。そういう刀があるよというだけでも若い子たちは見に来ると思うのです。それで私は出向いたので、それ以外のマスコミに言って、こういうのがありますよとやれば、入館者がかなり増えるのではないかなと思います。

博物館長

大変有り難い提案、意見なのですが、実は今、コロナ対策の一環で入場制限しております。博物館は50人、根城の広場も50人、南郷は非常に建物が小さくて換気ができない環境なので、1時間当たり10人という制限をしています。それを越えたらストップを掛けて待ってもらい、10人を越えないようにしている。

実は今、統計的に、コロナで博物館も根城の広場も昨年より、3月から7月の合計で言いますと、7,000人から4,000人に減っています。ところが、南郷は逆に増えています。広報しなくても刀がやはり人気が高くて、非常に入っている状態が続いておりますので、これ以上来られましても、逆に迷惑を掛けるかなと、悩ましい状態でございます。

議長

現在まで刀剣展の入場者数は大体どのぐらいですか。館長。

資料館長

特別展の入館者ですけど、7月11日に始まりまして8月5日、昨日現在ですけども、入館者数884名で、開館日数にすると23日目ということですので、平均すると1日38人ということになります。けれども、特に土曜日、日曜日に結構お客さんいらしたということで、来てはいただきたいんですけども、先ほど博物館長が言ったように、コロナの対策というのがあるって、ちょっと悩ましいところだと思っておりました。

議長

結構、特別展として刀剣展の入館者が多い。大体平均、特別展やると5、600人ですか。

資料館長

やっぱりその内容によってさまざまですけども、多いとき、リカちゃん展のときは、やはり3,000人ほどもありましたけれども、その内容によって違います。

議長

内容によってすごく浮き沈みあるでしょうけども、この刀剣展は大変いいということで嬉しい。コロナの中で嬉しいということで、本当に有り難いことでございます。

そのほか何かございませんか。有馬委員さん。

有馬委員

今のお話の、コロナの影響で館を閉じた時期はありましたし、再開しても人数制限しているというようなことで、悩ましい時期だったと思うのですが、その中であって、例えばそれに関心を示した方が、実際には行けないが博物館の展示はどういうふうなものか、そのニーズに応えるということは、これから先のことを考えると必要なのかなと思います。

以前からホームページとか少しリニューアルしたらどうでしょうか、というような提案をしております。例えば県立郷土館は、デジタルミュージアムと最初から銘打って、それに力を入れておりますし、市内の類似の施設の、例えば縄文館もホームページがすごく斬新な感じがする作りになっていまして、結構予算がいるとは思いますがけれども、できる範囲で少しずつ直していただければと思います。

議長

館長。

博物館長

ただいまのお話でしたが、コロナの影響が出始めて間もなく、指示をいたしまして、ホームページでの情報提供をもっと強化する、フェイスブック、ツイッターでたくさん情報を発信しよう、ということで先ほど説明の中にあつたエア博物館、新収蔵品展の様子を見せるというのもその一つでございました。それは今、既存のものでやっておりますけれども、加えて現在予算要求をしているのが、ホームページのリニューアルですとか、収蔵資料を見せる、ガイドする、そういうシステムの導入も、年度の途中でやっております、来月内示が来れば、今年度中から更新に着手して参ります。

今、お配りした資料でございましたが、休みの間、もちろん次の特別展の準備もしているのですが、同時に情報発信ということで、①番がツイッター、アカウントが博物館と根城の広場、この2つを使いまして、次の特別展の告知であるとか、館内の様子、新聞にも出ましたけども、鍾馗（しょうき）を飾ってコロナに負けるなということで、そのような様子を発信したりしました。②番が、ユーチューブを使って「エア博」ということで、館内の様子が見られ、音声付きになっています。間もなく出ると思います。

（動画視聴）

滝尻委員

これは誰が話しているのですか。

博物館長

担当学芸員です。

川口委員

今のはキャラクターですか。

博物館長

そうです。

鈴木（善）委員

角のある蛇という意味ですか。

博物館長

違います。

事務局

こちらの動画ですが、八戸市の広報統計課に所属しております、地域おこし協力隊の中堀（なかぼり）さんという方と一緒に作成いたしました。広報の中で八戸市のユーチューブチャンネルがありまして、その中で動画製作などを行っております。アドバイスをいただきながら、閉館はしておりますが、企画展、新収蔵資料展、全ての展示物、並んでいる状態での臨時休館でございましたので、展示室の中で撮影を行いまして編集をしていただいたというものです。

ただいま御覧いただきましたものを含めて3本、今も八戸市のユーチューブのチャンネルの方に動画がございますので、興味のある方は御覧いただければと思います。

今、画面に出ておりました不思議な生き物ですけれども、ただいまギャラリートークを特別展で行っており、そちらの方でも活用しているものになります。敢えてどこの何のキャラクターということ伏せて黒子に徹しております。

現在、御覧いただいたこのツイッターの方ですけれども、他の博物館でも休館されている博物館、全国に多数ございましたけれども「#エア博物館」、もしくは「#おうちミュージアム」などといった形で、それぞれの施設が収蔵資料ですとか、展示の内容、休館の様子などの情報発信をしておりました。当館では「#エア博物館」の方を付けまして、収蔵資料のご紹介などを休館中に行っておりました。現在は開館しておりますが、特別展の情報などを中心に出すようにしております。

また、史跡根城の広場の方のアカウントでは、広場の方で見られる今の季節の花ですとか、広場の方で行ったイベント、そういったものを中心にして、遠方から来られないような状況ですけれども、100名城でもあり、国史跡でもありますので、興味を持っていただいている方に応援をいただいています。

別紙でお配りしましたこちら③番の方、ホームページによる発信ということですがけれども、ツイッター等の方でも「おうち時間で楽しもう」というようなことで、博物館にある資料を基にしたものすとか、解説シート

やワークシートのようなもの、他の博物館でも特別にページを設けてという形で行っておりまして、それらのものを参考にしながら当館でもホームページ内に別のページを一つ設けまして、塗り絵ですとか、これまでにを行ったシンポジウムの資料、そういったものをこちらの方に展開いたしました。ダウンロードをし、おうちで楽しんでいただけるものとして提供いたしました。本気の塗り絵の方は、収蔵資料を基にして大人の方も本気を出して塗っていただけるような、正解のない塗り絵でありますので、ゆっくりおうちで楽しんでいただけるものとして作成しております。

博物館で現在運営しておりますSNSは、ツイッター、フェイスブック、こちらが主になっております。博物館で出す広報物ですとか、チラシですとか、そういったものにもなるべくSNSでやっていますということで、周知の方をしておりますので、今の若い世代の方ですとか、あまり博物館に興味のない世代でもSNSを通して分かりやすく、また興味を持ってもらえている面もありますので、これからも積極的に広報を行っていかうと思っております。

以上です。

議長

ありがとうございます。

今の時代、いろいろ館から発信するだけではなくて、館以外のこういうユーチューブ、ツイッターそういうもので子供たち、あるいは大人の方に発信していくことで、この八戸の博物館がより多くの人に理解していただくというのは大変いいことだと思います。これからもぜひリニューアルということもありますので、資料はたくさん写真も撮ってあるので大丈夫だろうかと思います。民俗の方の写真は結構撮ってあるから細かいものも大丈夫だと思うのですが、そういう意味ではこの博物館も資料がたくさんありますので、そういうものいっぱい出して一般の方が理解していただくようなことをしていかなきゃいけないと思います。

何かその他ございませんか。加藤委員。

加藤委員

さっき、島守の資料館の方で、今の「現代刀匠展」が好評であるという話がありました。2017年に博物館でも「キレモノ」展をやっているのです。そのときは、まずは赤羽刀など収蔵される刀が中心で、そのときも結構お客様が入っていました。今回は現代の、しかも東北のということでいろいろ拝見しました。やはり特定のテーマには人が集まると思うのですが、難しいなと思ったのは、私個人的には、昨年「昭和の子ども」展です。日本を代表する写真家たちのすばらしい写真を展示して、これは市民の方にみんな見てほしいなと思ったのだけでも、今一つ人が入らなかった。難しいものだと思っています。

今回、八戸の飢渴展をやっているわけですがけれども、これはちょっとタイミングがよすぎて、ちょうどコロナの年にぶつかったわけです。そうい

った意味では、これを見ることによって、いろいろな江戸時代の歴史と現代の関係で、今は複雑化していますが、非常に参考になるとは思うので、非常にタイムリーだったという感じはしています。

先ほどキャラクター出ていましたけれども、担当学芸員は黒子の服装をして何かキャラクターでやっておられ、どういった事情か、あとで教えてください。恐らく、非常に暗く重いテーマだったので、ユーモアで軽くしようという意味だったのかどうか、それは分からないのですが、私も感心しました。

実はコロナの関係で、併催イベントがここまで中止になっているのです。そうした意味では、例えば弘前大学のワークショップも中止になってくるわけです。今、非常に残念なことで、こうした意味ではさっきの「キレモノ」展と現代の刀の展示と言っていたように、飢渴展が終わっても、もし機会があれば、やはり飢渴の場合はその食文化というか、そういった意味の雑穀とかの兼ね合いがあってこそ初めて成立するので、何か計画にはあまり厳重にこだわらずに、機会があったら、またこういったできなかったことを、コロナが落ち着いたときにでもやれる機会があればやってくれば有り難いと思っています。いずれにしましても、いろいろ大変でしようけど頑張ってください。

最後、大変手前勝手に申し訳ありませんが、我々ボランティアもなかなか思うようにガイドできない状況が続いており、新人の獲得に苦勞しております。コロナの関係で新人養成講座も延期になっておりますが、ぜひ、頃合いをもって新人獲得のために、まず一度実施していただければ有り難いと思っております。

以上です。

議長

事務局から何かありますか。

事務局

ギャラリートークの方では、3密等を避けるために人数制限も設けておりまして、定員5名までとさせていただいております。黒子の衣装を着てやらせていただいておりますけれども、ただのフェイスシールドでは味気ないかなと思ひまして、古風な方のフェイスシールドで、というところです。黒子だけというわけにもいきませんので、黒子には必ず本体が何かなければいけません。

あと、大人向けの展示内容にはなっておりますが、先週は子供の参加もございましたので、少しでも親しみやすいように、かみ砕いてお話をできるようにということで工夫をさせていただいております。

加藤委員

お似合いでしたよ。

議長

川口委員。

川口委員

今の関連ですけども、私もいろいろ歴史に興味があるものですが、今、なかなか行けなくなっているのが、コロナで今やってらっしゃるような、ホームページ上とかツイッターで入館できるのであれば、非常に楽しみ方が広がるのではないのかなと思っていました。多分まだ収束の見通しが見えない中で、新しい観賞の仕方を考える、これはちょっときっかけにもなるのかなと思っていました。

講演会とか様々な博物館クラブとか、そういったものが中止になっているのですけども、興味がある講演は聞きたい人も多いと思うので、例えばユーチューブとかの動画で放映してもらったり、学芸員さんのギャラリートークをユーチューブで流すというのを他の郷土館でやっているところを見たことがあるので、せっかくの講演会で講師の方がいらっしゃるのであれば、ユーチューブなりを通して講演してもらって、それを見られるような形もあるかと考えたりもします。あとは史跡で広場のガイドさんもユーチューブで案内しているところをアップすると、根城の史跡に行かなくても見ることができるのではないかと思いました。

あと、私もケガジの郷土史、先日見させていただいたのですけど、とても資料が充実していて歴史がよく分かる、そういった展示になっていました。ただ一つ要望としては「とらのすけさん」ですか、あの旧藩士のとらのすけさんが案内役で出てくるのですけれども、とらのすけさんの説明がまたおもしろくて、こちら文字を読んでからまたこちらという、結構読まなければならないものがたくさんあって、とらのすけさんに音声ガイドで、何か押すと、美術館でしているような、ああいう案内をしてもらうような、そういうキャラクターとして登場して、文字で読むのではなくて音声で案内してくれる、またはホームページ上で、先ほどキャラクターが出てきましたけども、このケガジの郷土史はとらのすけさんのキャラクターなので、とらのすけさんにホームページ上で語ってもらうようなやり方というのもいいのかなと思いました。せっかくあそこにキャラクターがいるので、登場してもらって語ってもらえると楽しいのかなと思いました。

以上です。

議長

文字だと分かりにくいから、そういう意味では、今、川口委員さんが言ったような音声があると子供たちは興味を持つでしょう。そういう意味で、これからの博物館はリモート博物館だと思うのです。やはりそうしていかないと、紙だけで宣伝するのではなくて、こういう今のメディアでやっていくというのはすごく大事だと、館長さんが一生懸命やってくれるのはいいと思います。だからこれからは、そういうことで発信していくというのは、そういう時代だから、紙ではなくて、こういうメディアの在り方があるのですから、ツイッターだとかユーチューブ、SNSで発信してもらえれば、博物館が全国区のネームバリューになるのではないかと

思います。

その他ございませんか。

滝尻委員

今の川口委員の話は、今回じゃなくて次回からということですね。今回はもうできないですね、1ヵ月経っていますから。どうしますか。次回考えるところでいいですね。

博物館長

音声ガイド、実はものすごくお金が掛かる。維持管理費がものすごく掛かるのと、音響を最初からきちんと設定した建物で行わないと、あちこちから音が混ざってしまい聞き取れなくなってしまいます。個々人でイヤホンというのとは違うのですが、今、このコロナでイヤホンの貸し出しができない、それで、実は今、その改修の予定があって、ホームページを使って解説を見られるようになるのですが、結局目で読まなければならない。そういう改修を予定しておりまして、音声はなかなか大変です。

滝尻委員

質問書に書いてあるのがそれなのです。来年とコロナ関係でそういう予算が増えてくるだろう、予算とっておかないと大変ですよというのが趣旨の質問書での文になっているのです。今の川口さんと同じようなことです。

鈴木（善）

東博、西洋美術館には音声ガイドってこういうのがあって、ボタンを押すと音が出るのです。ヘッドホンは貸し出しができないとなると問題が出るけれども、そういうのもこれからも考えて、導入するのも必要だと思うのです。

博物館長

個々人でイヤホンを持って、個人の携帯から聞こえれば一番理想です。

議長

コロナだけではなくて、時代の流れでそういうものが増えてくれば有り難いと思います。

その他ございませんか。有馬委員。

有馬委員

さっき「ケカジ展」はタイムリーだったというお話が出ました。これは何年も前からこういう企画をしてこられているのだと思いますので、ここに来てコロナと当たったのは偶然だったと思いますが、やはり市民の感覚で言いますと、飢饉があるのだったらコロナもやってくれたらよかったじゃない、という感覚をどうしても持ってしまう。この状況にラスト、最後にコロナに関して少し表示しているところがあります。今の展示物の最後にアベノマスクがあって、何かちょっと皮肉を込めた展示になっているのだと感じました。

この前、県立郷土館に行きましたら、民俗の部屋にコロナ関連を急遽足

しています。何も予定がなかったそうです。タイトルが「祈り」、「疫病退散」、「人形送り」、「百万遍」、「ねぶた」というふうになっていますけれど、主に江戸時代の疫病、どうやって何かしら打ち勝ち、乗り越えてきたのかというのを、簡単に説明してありました。そういうのは付録みたいに付けてくれたらよかったですのではないかと想像しています。

それと加藤さんがおっしゃったように、まだ続くかもしれないから、何か企画したらいいのではないかとということも考えましたが、手っ取り早くやるのであれば、毎年9月に「八戸の災害」というのをしているわけで、あそこで今回はコロナに関連して、今までの疫病などを展示して下さったらよろしいのではないかという思いでした。

以上です。

議長

この特別展のケガジの郷土史、これに付け加えるということは無理でしょう。

加藤委員

4月20日のデーリー東北に八戸の疫病史が、前の特別展の災害展のときの調べが、江戸時代からのものも含めて出ています。新聞でも博物館から結構配信している。いずれにしてもコロナはしばらく続くでしょう。

議長

年に1回「八戸の災害展」というのをやっているのだから、それにぜひコロナも1つ加えて、来年9月の八戸の災害の中であればいいのではないか。

博物館長

それは新聞記事も含めてまだ完全ではございませんので、調べが整い次第進めて参りたいと思います。

議長

デーリーのこれは担当学芸員がやっていたのですか。

加藤委員

4月20日の記事も担当学芸員です。

事務局

はい。

加藤委員

災害の資料は災害の特別展の資料です。

議長

だから博物館として資料はあるので、それにコロナも加えてやりたい。

事務局

実は昨年「ミニパネル展 八戸の災害」で疫病を取り上げておりました、その成果、内容を知っていらっしゃる記者の方が博物館に来て話を聞いてくださったもので、結構前ですけど、特別展で「八戸の災害」というものもやっておりまして、そう言ったところ、見に来てくださったよう

です。

今もコロナについて、展示の中にたくさん盛り込んではいないという点はある程度御意見いただいておりますが、今回八戸藩を中心とした飢饉の話は展示の中で出しております。これらは100年、200年たった上で資料が残っているからこそ、今の時代から振り返ったからこそ書けるものとして今回の展示を構成しております。新型コロナウイルスの方は、これから資料がたくさん蓄積された上で、また何10年とか経ってから改めて継承された上で、こういった展示会になるのかなという部分でございますので、今はまだ資料を集めて検証していく段階と考え、図録の中にも多く盛り込むことは敢えていたしませんでした。

以上です。

議長

ありがとうございます。

世界史的にはペストがあります。だからやはりコロナというのは一つの大きなテーマだと思います。

加藤委員

これは、一度は取り上げなければならないテーマですね。暗くて重くてなかなか取り上げられないけれども、これは必要なテーマですね。

議長

他に何かありますか。鈴木委員。

鈴木委員

急ぐものじゃないのですが、東高校で「リカちゃん」人形を出すということで、それを「南郷ホタルリカちゃん」の隣にもう1回お友達が増えましたということにできないか。突拍子もない話ですけど、せっかくメリーちゃんがいて、ホタルリカちゃんが2体いるのですから、ここにまた1体、八戸のリカちゃんの仲間が増えましたとしたら見に来る人もいないか。

議長

東高校でやっていますので、手を挙げて一つ来ていただけないかということですが。

その他ございませんか。鈴木委員。

鈴木（規）委員

今日は博物館が会場ということだったので、少し早く来られたので中のほうを回ってみました。そうしたらコロナ対策の方もしっかりされていて、座席一つ置きになるようにきちんとバツェンがついていて、そこかしこに3密にならないようにというのがあって、すごくよかったです。

あと、小学校の子供たちの目から見て、やはり文章が多いと難しいというのがあったのですけれども、その中でも、前からたしかあったと思うのですけれども、八戸の参勤交代、江戸までの大きな地図があって、1泊

目、2泊目、3泊目、17日間掛けてやっているというのはすごく分かりやすくてよかったですし、また、足元のところに原寸大丹後平古墳群、実物大のお墓の跡があって、あれも子供たちにとっては、写真では見るのですけども、やはり実物大の大きさのものがあると非常に子供たちに分かりやすくて、興味も募ります。すごくいい展示だったと思います。

それから、この「かてもの探し in 根城薬草園」、これに関しても子供たちは実際に探して回る、こういうのは子供たちがすごく好きなので、こういうふうな企画がたくさんあればいいかと思います。ちょっとこれ実際はどれぐらいオリジナル記念品もらった子がいるのかなというのが、後で分かっていたら教えてください。

説明シートがあちこちにあってすごくいいと思うのですが、これも同様にやっぱり小学生には6年生でもちょっと難しいかなというところがあるので、もう少し小学校向けの、本当に簡略化して分かりやすいものがあれば子供たちもいいのかなというふうに思います。

私個人的に視聴覚ライブラリ、昔っことか好きだったのですけれども、なくなっていたようで、ああいうのをまたこれから復活する予定はありますか、というところで教えてください。

以上です。

事務局

コロナが収束してきたら再開します。

議長

そのほかございませんでしょうか。

シートは、あれは小学生向きじゃなくて一般用で作ってあるのです。あれはもう平成5、6年から作ってあるのですけれど、やはりそういう意味では万人向きの、小学生でも分かるようなものがあればということでございます。

そのほか何か。野田委員。

野田委員

コロナの関係でグッジョブがなくなって、博物館のほうに体験に来る生徒もいなくなり、博物館見学はなかなか難しい状況というふうなことで、館長さんからもSNSでたくさん発信していただいているということ、実際まだ勉強不足でここまでやってくださっているということを知らなかったのです。今、市教委の方でGIGAスクールということでタブレット、生徒1人1台というふうなことで整備中です。本校では充電器は今日全部揃ったり、あるいはネット環境が整備されたりということになるので、何かそれを使って授業とか、そういうところでうまく、例えば社会の授業とか総合学習とか、各教科にもタブレットを使って、このSNSを活用して博物館等を紹介できればいいのかと思っていました。ただ、そのタブレットの使い方やその他に関しては未定です。来るというのは分かっているのですけども、そういうところもあるので、今後提携できればいいと思いま

した。

以上です。

議長

ありがとうございます。

そのほかございませんか。工藤委員。

工藤委員

ピンチはチャンスなので、今のコロナの問題もある中で、子供たちは家にいてやはりどこかに行きたいと思っているという状況は、本当は博物館にとってはチャンスだ。やはり何かしたたかに頑張ってもらいたいという気もしていました。

あと、資料の年報の19ページですけども、資料寄贈者御芳名のところに、石田家（いしだや）関係資料とあるのですが、前に石田家の関係で資料を借りてきて、東日本大震災で被害を受けたということで、急きょ特別展をやったとき、かなり注目している人が多くて、見学者が多かったです。これも然るべき時期に、何かまとまった形で特別展みたいなことを開いてもらえれば、これかなり成功するのではないかというので、できればそういうことの対象に、今のうちから入れてほしいと思いました。

それと典屋（てんや）関係資料、坂口（さかぐち）さんとありますけど、これ具体的に何の資料ですか。

博物館長

江戸時代の芸能を仕切っていた、典屋さんがお持ちの、踊る際の道具と面です。

工藤委員

何点もあるのですか。

事務局

春田打ち（はるたうち）の歌詞が書かれている文書が1点、あと面が8点ぐらいで、あとは小さいサイズの鍬、鎌、烏帽子、太鼓ですとか、お囃子道具と思われるミニチュアサイズのものでしたとか、獅子頭、それは直接典屋ではどうも関係ないようなのですが、一括資料ということでいただきまして、全体で40点というような形です。

工藤委員

多分これ江戸時代の江戸の興業の元締めのところだと思います。そういう意味で貴重かと思い、内容を聞いて嬉しい。分かりました。研究資料としてはおもしろいものです。

滝尻委員

春田打ちの面は、イチノヤの方でしたら文化財になっているものです。

議長

今、工藤委員から出ました、その石田家さんの資料があるということで、これを一つにまとめて、ぜひ特別展の中に、ここ何年間の間に調査してやっていただければと思います。

工藤委員

村井村治（むらい むらじ）さんが、鮫地区の古い写真をきちんととっています。

博物館長

前回お持ちになられたのが、秩父宮が来られたときの写真だったので。ちょうど高館の飛行場ができる前の時期になると思うのですが、わざわざ案内して、ここに飛行場できるよという。今の小田八幡宮の多分裏辺りから村の通りで撮っている写真、道路といっても当時は野原です。そういう写真があったり、尻内駅にベンツで御迎えに行っている写真があったり、非常におもしろい写真が確かにございました。

工藤委員

御本人が大事にしているから期待しています。

議長

加藤委員。

加藤委員

先ほどいろいろお話がありまして、特に博物館さんにおかれましては、今の時代にふさわしい、コンピューターを駆使したいろいろなことが行われておりまして、例えば去年の「八戸 90 年のあゆみ」では八戸工業大学などのタイアップで、懐かしの八戸を体感するとか、そういう科学的な試みがなされておりまして。それに比べまして我々ボランティアグループは何分にも高齢者社会で、私も全く付いていけなくて、ただ、幸い若い会員の中では極めてインターネットに強い方なども入ってきておりますので、今後とも博物館様の御指導を受けながら、新しい時代にふさわしいガイド方法を模索していきたいと思っておりますので、御指導をまたよろしく願います。

議長

ありがとうございます。

その他ありますでしょうか。

滝尻委員

資料の石田家関係資料のこの「や」の字も、屋根の「屋」じゃなくて「家」です。

博物館長

去年の印刷なのですみません。

議長

ありませんか。有馬委員。

有馬委員

コロナのつながりでもう一つ、コロナが 100 年に 1 度の災いだと言っている人もいます。まだ続くだろうという感じですけども、博物館で見つけるのは仕事としてはもちろん、収集して保管する、という仕事はあるわけですので、何年か経てばこのコロナというのは、後々は教科書に載るよう

な時代になるのかもしれませんが。昔の資料収集するのも大事ですけど、今起こっていることが分かる資料を収集するのも、もう少し力を入れていただければと思います。特に今回とばかり食らったのは学校の先生もそうですし、子供たちもそうだったと思うのですけれども、どういう対応をそのときしてきたのか、大事なことになると思います。例えば、学校だよりとか学校通信という、毎月各家庭に配っていると思いますが、そういうのも収集しておいていただければ参考になるという感じはしました。

あと、特別展は何年も前からそれで企画してきているのだと思いますけれども、この前の熊の展示のときにも拝見してもらいましたが、八戸で動物に関しての関心事といたら、現在では鹿などもそうですけれども、やはりクジラでしょう。クジラの展覧会を実際にしていただければいいなと思っていました。さきに南郷の話も出ましたけれども、南郷の住民の皆さんが捕鯨の船団に乗り組んで活躍していたというようなこともありますので、ぜひ、クジラを取り上げていただければいいなと思っていました。

以上です。

議長

ありがとうございます。

そのほかございませんでしょうか。なければこれで終わりたいと思います。事務局の方にお返しいたします。

(閉会)